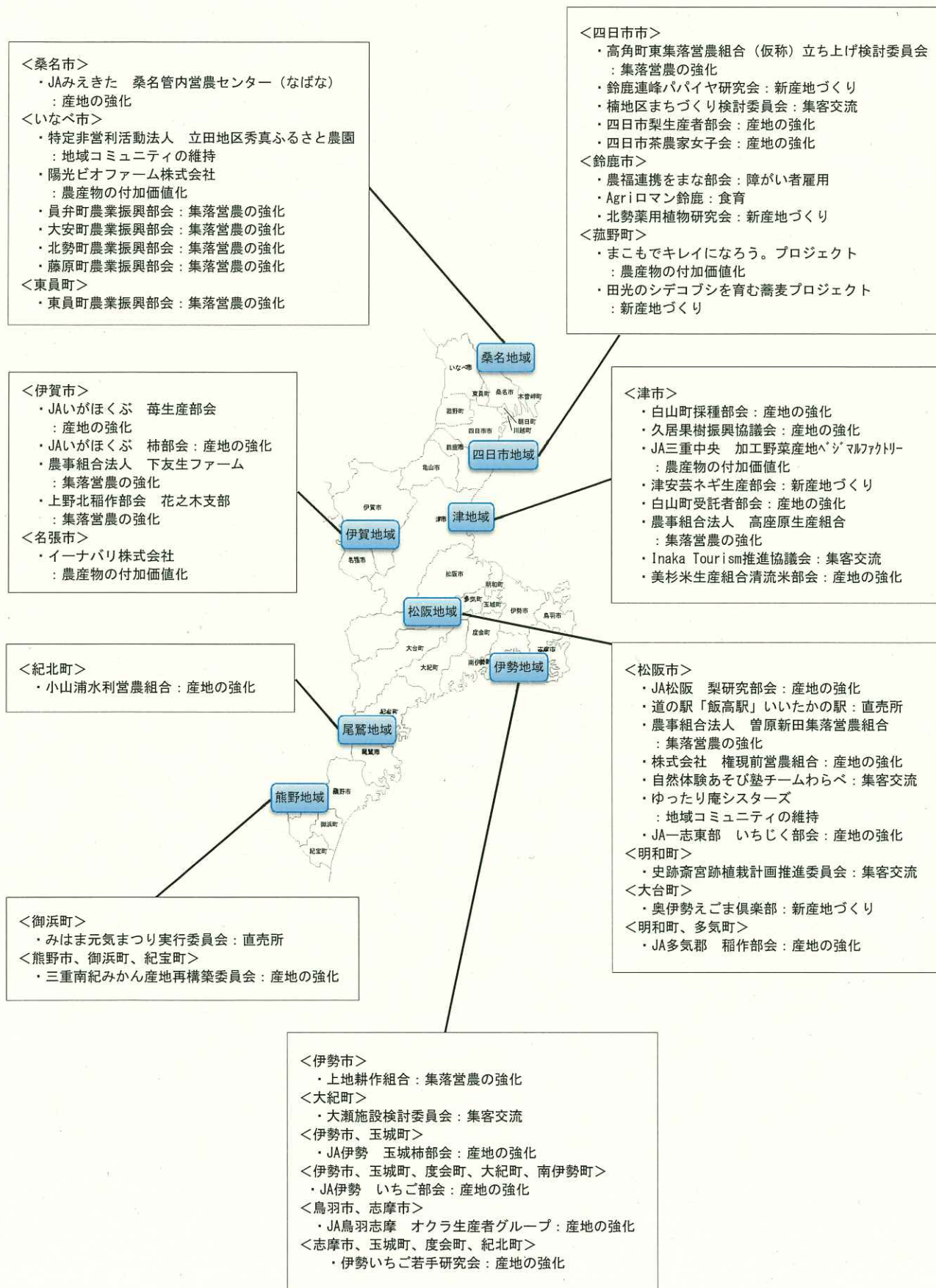


地域活性化プラン一覧（平成29年度策定）

- 1 【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について
- 2 地域活性化プラン一覧
- 3 地域活性化プランに関する問合せ先

【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について

H29 プラン策定数 50プラン



地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
四日市	四日市市	四日市茶農家女子会	女子力がかぶせ茶産地を元気に！～若い世代にお茶の楽しみ方を提案し、茶葉の需要拡大につなげる～	古くからお茶の栽培が盛んな地域で、現在では日本有数のかぶせ茶産地となっており、茶で地域経済が成り立っている地域である。 しかし、近年茶価の低迷により、経営難に陥る茶農家や荒廃園が増加するとともに、後継者も不足していることから、茶産地としての維持が難しくなっている。 その中で、大規模農家ではGAP認証取得や碾茶工程の導入など需要者が求めるお茶を提供するための取組が行われている他、若手女性による緑茶喫茶の開業、新商品の開発・販売等茶業経営改善に向けた新たな取組も始めている。	○茶に関心の薄い年齢層に対する茶の魅力の訴求 ○茶葉の新たな需要創造、消費拡大 ○地域内外の他グループとの連携による活動 ○収穫時期に合わせたイベントの実施	PR活動 6回/年 料理教室・出張講座等の実施 6回/年 SNSによる情報発信 1回以上/月 生産者以外の会への参画 1人	発展 H30.3
四日市	鈴鹿市	Agriロマン鈴鹿	育てよう、子ども達の食への関心	長年、農村の活性化や地産地消、食育に関する活動を積極的に行ってきた結果、小学校や公民館の出前講座やキッズ料理教室の依頼が増えてきた。 しかし、会員の高齢化に伴い、活動できる会員に限られてきていることから、会員の負担が大きくなっている。 今後は、活発な活動を維持していくためにも、新規会員を増やし、活動できる会員の確保が必要である。	○食育に関する知識の向上 ○料理教室の開催や出前講座の実施等 ○会員数の増加	研修会や視察等への参加 3回/年 料理教室向けレシピの開発 1回/年 キッズ料理教室の開催 2回/年 出前講座の実施 10回/年	H29.9
四日市	四日市市	鈴鹿連峰パパイヤ研究会	四日市市川島地区を中心に青パパイヤ(野菜)の栽培拡大に取り組む	本地域では、農業者の高齢化や有利販売できる作物が定まっていないこと、栽培面では農業用水がないこと等により、農地の約20%が遊休農地状態となっている。 このことから、平成28年度より新規作物である青パパイヤに着目して試作を始め、平成29年度より農場直売やJA直売所、スーパー等に販売しており、今後も遊休農地の解消の一翼を担えるよう栽培面積の拡大を図っていく。	○栽培の拡大および苗の安定供給 ○販売・消費の拡大および販売先の開拓	栽培本数 150本 15a→300本 30a 生産者の募集 育苗施設の整備 料理教室の開催 1回 地元高校との連携によるレシピ開発 1回 パパイヤ茶の開発試作 イベントでのPR活動	H29.10

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
津	津市	白山町採種部会	白山町採種部会地域活性化プラン	<p>本部会では、農協等関係機関の指導のもとで長年に渡り、水稻の良質種子の生産に取り組んできたが、近年では農業者の高齢化や担い手不足、獣害被害が問題になっている。</p> <p>なお、県主要品種である「コシヒカリ」の採種については、県内部会の中で当部会が三番目に多く、「結びの神」ブランドの専用品種である「三重23号」については、県内唯一の生産である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培技術の向上 ○種子の品質向上対策の検討 ○種子GAPの実践 	<p>種子契約数 67.1%→100%</p> <p>ほ場巡回、栽培講習会・視察研修会の実施</p> <p>実証ほの設置</p> <p>種子GAPの実践</p>	H29.5
津	津市	久居果樹振興協議会	残そう！広めよう！津市のブランド「ひさい梨」！第2章	<p>本地域は、梨の栽培面積・収穫量ともに県内1位の産地であり、「ひさい梨」は地域を代表する重要な特産品となっている。</p> <p>しかし、近年生産者の高齢化が進んでいることから、産地の維持においては後継者の確保ならびにスムーズな経営移譲が課題となっている。</p> <p>また、販売については生産者が販売所を設け、顧客に直接販売する個選個販形態であるが、近年直売所に立ち寄るお客は減少し、既存顧客は60歳以上が多く、若年層の顧客が少ないことから、新たな顧客確保するためのPR活動が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「ひさい梨」のブランドPR活動 ○「ひさい梨」の販売力向上 ○県域梨販売農家育成組織と連携した後継者育成 	<p>県外イベントやインターネットを活用した情報発信 6回</p> <p>地元小中学校の総合学習への協力、学校給食への利用 6回</p> <p>県域梨販売農家育成組織に参加する後継者の確保 2名</p>	<p>発展</p> <p>H30.2</p>
津	津市	JA三重中央 加工野菜産地ベジマルファクトリー	「地域資源を活かした新たな商品開発」～地元生産組織との連携活動によるさらなる地域活性化～	<p>本部会では、消費者ニーズに応じるため県内外に販売先を確保し、商品アイテムを拡大していることから、経営も順調であり、地域の担い手所得向上に寄与している。</p> <p>その一方で、本地域では農業者の高齢化と担い手・後継者不足に加え、獣害等による生産意欲の減退により、農地の荒廃や耕作放棄地の増加をはじめ、農業や農村の衰退が危惧されている。また、農産物価格の低迷や不安定による農業者所得の減少も課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地場農産物を使った新商品の開発 ○地域内外への販売促進および販路の拡大 	<p>栽培面積の拡大 まこも0.8ha→1ha</p> <p>生産組織や大学等多彩な関係機関との連携による商品開発や販路開拓道の駅や直売所等でのこだわり商品の試食販売</p>	<p>発展</p> <p>H29.12</p>

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
津	津市	津安芸ネギ生産部会	新規部会「津安芸ネギ生産部会」を核とした新規ネギ産地の確立	<p>芸濃地区ではキャベツやズイキ、高野尾地区では花木、雲出地区ではキャベツやイチゴの栽培が盛んに行われていたが、価格の低迷、高齢化や後継者不足などにより年々規模が縮小している。</p> <p>そこで、比較的価格が安定し、需要の高い白ネギを導入し、新規産地の確立および生産拡大、地域農業の発展を目指す。</p>	<p>○白ネギの新規産地の育成に向けた新規栽培者の確保および規模拡大</p> <p>○白ネギ栽培技術の確立および実証のほ設置</p> <p>○研修会や現地視察の実施、現地巡回、出荷会議の開催</p> <p>○規模拡大に向けた機械化体系の導入・実証</p>	<p>部会員数の確保 16名→25名</p> <p>栽培面積 1.05ha→5ha</p> <p>研修会や現地視察の実施、現地巡回、出荷会議の開催</p> <p>機械化体系の導入・実証</p>	H29.11
津	津市	白山町受託者部会	白山町受託者部会地域活性化プラン	<p>本部会では、農協等関係機関の指導のもとで、長年に渡り地域の農業を守るため、水稲や小麦、大豆等の生産に取り組んできた。</p> <p>しかし、近年では農業者の高齢化や担い手不足が続き、受託面積が年々拡大する一方で、獣害被害による耕作放棄地の増加も問題になっている。</p> <p>また、受託による経営規模拡大に伴い、草刈り作業が重労働となっていることや、排水不良の水田が多いことから受託者間の収量格差も課題となっている。</p>	<p>○小麦や大豆のブロック栽培および単収・品質の向上</p> <p>○業務用米の試作検討および水稲全体の単収・品質の高位安定化</p> <p>○後継者の確保および法人化</p>	<p>小麦単収 260kg/10a→330kg/10a</p> <p>大豆単収 72kg/10a→150kg/10a</p> <p>経営面積の拡大 20ha増</p> <p>農業法人化 3法人→4法人</p> <p>ほ場巡回、栽培講習会・視察研修会の実施</p>	H30.2
津	津市	農事組合法人高座原生産組合	高座原地区における農業の維持・活性化	<p>本地区では主に水稲や麦、大豆の作付けを行っているが、高齢化により離農者も増え、組合員数が減少している一方、組合で預かる農地も年々増えてきたことから、平成26年度に法人化した。地域の担い手として生産活動や獣害対策に従事し、獣害被害は減少したが、麦や大豆は湿害や土壌条件、雑草害により収量が伸び悩んでいる。</p> <p>また、集落内の人材を確保し、活気のある集落を維持するため、空き家が出ないよう積極的に移住者を受け入れ、出会い作業や地区住民との交流の場への参加も促している。</p>	<p>○安定した麦・大豆の生産</p> <p>○条件不利地の有効活用</p> <p>○獣害対策の高度化と継続</p> <p>○集落内の住民交流促進</p>	<p>先進地視察および事例収集、改善策の検討・実施</p> <p>土壌診断に基づいた土壌改良・適性施肥</p> <p>新規作付品目の検討・試験栽培</p> <p>生産課題の整理、販売先の検討・出荷</p> <p>獣害対策の強化、捕獲方法の改善</p> <p>景観作物導入の検討・試験栽培</p> <p>地域資源を活用した交流事業の企画・実施</p>	H30.2

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
津	津市	Inaka Tourism 推進協議会	美杉町の歴史、文化、人、物を観光と繋ぐ体験型ツーリズムによる農山村活性化	本地域は森林面積が9割を超えており、農地は3%程度と農業で栄えた地域ではないが、ブランド米「美杉清流米」やしいたけ、茶、マコモ等農産物を積極的に栽培しているとともに、滞在型の市民農園や朝市・青空市が設けられ、食と農や地域の魅力を発信する取組が行われている。 しかし、農業従事者の高齢化や担い手の不足、獣害等営農の継続が困難な条件が多く、それらが原因となる荒廃農地・遊休農地の増加が懸念されている。	<ul style="list-style-type: none"> ○ツーリズムのPR等による集客拡大 ○Inaka Tourism推進協議会の収益事業の実施 ○体験メニューの開発およびブラッシュアップ ○大学との連携による人材育成および雇用確保 	ウェブやSNSを活用したPR 海外メディアやファムトリップの受入れ 各体験メニューを提供する地域事業者への橋渡し 各種ガイドツアーの実施 古民家を改修したカフェ兼ゲストハウスのオープン 体験メニューの開発およびブラッシュアップ 大学卒業生の雇用および在学生・留学生のインターン支援、開業の支援	H30.2
津	津市	美杉米生産組合清流米部会	美杉清流米活性化プラン	本地域では米を中心とした自給的農家が多く、中山間地であることから経営規模は小さく、販売農家は少ない状況である。 そのうち、農薬の使用を一般的な栽培の半分にし、化学肥料を使用せず有機肥料で栽培した特別栽培米「美杉清流米」を生産しているが、地理的条件から平均収量が低く、近年は深刻化する獣害と生産者の高齢化が大きな課題となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ○「美杉清流米」の生産量・生産者の増加 ○地域ブランドとしての確立およびPR活動 ○GAP認証取得 ○収量・品質向上に向けた栽培研修会・検討会の実施 	生産量・生産者の増加に向けた生産体制・活動内容の検討 ブランド確立および販路拡大への取組 GAP取組宣言およびGAP生産者会議 栽培研修会・栽培暦検討会の実施およびほ場巡回	発展 H30.3
松阪	大台町	奥伊勢えごま倶楽部	奥伊勢大台えごまの産地化に向けた取り組み	町全体の90%を山林が占める中山間地であり、経営規模は零細で、農業就労者の高齢化と後継者不足が著しくなっている。さらに、近年獣害の拡大が顕著となり、農業生産への意欲減退と耕作放棄地増加に拍車をかけている。 そうした中、町内の女性農業者有志が、有効成分の機能性が注目されている「えごま」の栽培と加工販売に取組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ○えごまの栽培技術の確立 ○搾油技術向上による品質安定化 ○採種技術向上による高品質な原料確保 ○消費者ニーズに合った商品開発 ○地域集落内への作付け推進 	町内栽培状況調査・研修会の実施 5回 先進地視察 3回 栽培・品質管理マニュアルの作成 各1刷 実証ほの設置 2箇所 品質管理手法の検討 3点 油粕利用の検討 1箇所 加工製品の試作・検討 5品目	発展 H30.3

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
桑名	桑名市	JAみえきた 桑名管内営農センター(なばな)	JAみえきた桑名管内『三重なばな』の発展と産地の振興	冬季に水田を利用したなばなの作付が盛んで、作付面積、出荷量とも県下第1位の出荷規模を誇るが、生産者の高齢化により栽培面積減少が顕著である。 また、管内での目揃え会が行われておらず、品質が統一されていない。	○新規生産者の確保 ○晩生種の推進による出荷量の維持 ○栽培講習会や目揃え会の開催による品質の維持、向上	新規生産者栽培講習会の実施 圃場巡回での現地指導 目揃え会の実施 出荷時の検査強化	H29.12
桑名	東員町	東員町農業振興部会	担い手を核とした水田農業の振興による、員弁郡東員町地域の活性化	担い手農家による麦、大豆の作付が定着し、団地化とブロックローテーションが進められている。 また、施設野菜や園芸作物の少ない水田農業が中心の農業地帯で、第2種兼業農家が農家数の73%を占めている。 このことから、水田担い手農家の経営を発展し、水田農業の振興により地域の活性化を図る。	○都市近郊農村における消費者連携と販売戦略（検討会や研修会の実施、景観作物の栽培） ○業務用米の導入による担い手農家の経営発展 ○飼料用米の作付けによる水田の活用	検討会や研修会の実施 景観作物の栽培 業務用米の試験作付面積 4ha 飼料用米の導入 1品種	H30.2
桑名	いなべ市	特定非営利活動法人 立田地区 秀真ふるさと農園	農と福祉の活性化プロジェクト	本地区は水稲作が中心であり、川沿いの農地では農家組合への作業の集約化が進んでいるが、川から遠く区画の小さい農地では、高齢者によって自家消費用の露地野菜が作付されている。また、いなべ市が平成30年度に養鶏場跡地にオープンする農業用施設「いなべ市立田農園」を活用し、施設栽培(ミニトマト)を行う計画である。 課題としては、担い手の高齢化や不足、獣害の増加により、耕作放棄地や空き家が増加している。	○農業用施設や耕作放棄地を活用した農産物の生産 ○高齢者福祉の充実 ○貸し農園や収穫体験による都市部と観光客と地区住民の交流	農産物販売額の向上 雇用数 5名 貸し農園契約数 22区画	H29.11

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
桑名	いなべ市	陽光バイオファーム株式会社	こだわり野菜の生産と6次産業化事業の推進	<p>本地域は生産者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加などの課題を抱えていることから、弊社では地域の担い手として、農地を借り入れ、野菜生産を行っている。</p> <p>また、みえの安心食材表示制度や6次産業化総合計画の認定を受け、自社で生産した野菜を原料として、漬物や焼き菓子を製造している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○耕作放棄地の活用および野菜生産の拡大 ○6次産業事業者としてもうかる農業の実践 ○GAP認証取得 ○加工品の開発および販路拡大、地域農業のPR 	<p>露地野菜の栽培面積 170a→275a</p> <p>ハウス野菜の栽培面積 7a→25a</p> <p>新しい加工品の開発 1商品/年</p>	H30.2
桑名	いなべ市	員弁町農業振興部会	担い手を核とした水田農業の振興による、いなべ市員弁町地域の活性化	<p>ほ場整備済みの水田で規模拡大を図る担い手農家や集落営農組合により、麦・大豆を組み合わせた輪作体系および集落単位のプロックローテーションが行われている。また、一部地域の麦・大豆の作付けに適さない水田では飼料米等の生産が行われている。</p> <p>一方で、集落ぐるみでの追払活動や侵入防止柵の設置等獣害対策を実施しているが、農作物被害が深刻化しており、地域資源の基盤である農地を守る仕組みづくりが求められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○業務用米の導入による担い手農家の経営発展 ○飼料用米の作付けによる水田の活用 ○関係機関との連携および継続研鑽（検討会や研修会、先進地視察の実施） 	<p>業務用米の試験作付面積 4ha</p> <p>飼料用米の導入 1品種</p> <p>検討会や研修会、先進地視察の実施</p>	H30.2
桑名	いなべ市	大安町農業振興部会	担い手を核とした水田農業の振興による、いなべ市大安町地域の活性化	<p>整備された水田で地域輪作体系が確立し、赤米や納豆用小粒大豆等集落営農組織による特色ある水田利用を行っている。</p> <p>また、肉用牛を飼養する担い手による協議会を設立し、黒毛和牛「三重いなべ牛」のブランド化に取り組むとともに、飼料用米の作付けによる水田の利活用が進んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○業務用米の導入による担い手農家の経営発展 ○飼料用米の作付けによる水田の活用 ○関係機関との連携および継続研鑽（検討会や研修会、先進地視察の実施） 	<p>業務用米の試験作付面積 2ha</p> <p>飼料用米の導入 1品種</p> <p>検討会や研修会、先進地視察の実施</p>	H30.2

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
桑名	いなべ市	北勢町農業振興部会	担い手を核とした水田農業の振興による、いなべ市北勢町地域の活性化	整備された水田で地域輪作体系が確立し、需要に応じた水田の活用を図るため、ソバやハトムギなどを栽培している。 一方で、獣害による農作物の被害が深刻化していることから、集落ぐるみでの追払活動や侵入防止柵の設置、計画的な捕獲等獣害対策に取り組んでいる。	○業務用米の導入による担い手農家の経営発展 ○飼料用米の作付けによる水田の活用 ○関係機関との連携および継続研鑽（検討会や研修会、先進地視察の実施）	業務用米の試験作付面積 4ha 飼料用米の導入 1品種 検討会や研修会、先進地視察の実施	H30.2
桑名	いなべ市	藤原町農業振興部会	担い手を核とした水田農業の振興による、いなべ市藤原町地域の活性化	整備された水田において、麦・大豆を組み合わせた輪作体系および集落単位のプロックローテーションが確立されている。一方で、獣害による水田作物の被害が甚大な集落が多いうえ、粘土質で排水性が悪く、生産可能な品目が限られている水田が多いことも特徴である。 その他、いなべ市農業公園を核とした都市住民との交流や高齢者等地域住民の生きがいを発揮した地域の活性化が進められている。	○業務用米の導入による担い手農家の経営発展 ○飼料用米の作付けによる水田の活用 ○関係機関との連携および継続研鑽（検討会や研修会、先進地視察の実施）	業務用米の試験作付面積 3ha 飼料用米の導入 1品種 検討会や研修会、先進地視察の実施	H30.2
四日市	菰野町	まこもでキレイになろう。プロジェクト	乾燥マコモタケの製品化及び湯の山温泉での観光利用を通して、町特産のマコモタケのさらなる生産振興と消費拡大を目指す取り組み	地名由来の植物として、マコモタケの商品開発や料理提供、特産品としてもPR活動を行っている。 しかし、販売先が限られており、旬の時期には大量のマコモタケを十分に利用できていない他、水煮にすると食感の良さが失われる、実需者のニーズと出荷量の不一致、生産者の高齢化が課題となっている。 このことから、平成26年度より湯の山温泉旅館宿泊者を対象に収穫体験プランを試験的に実施した。	○マコモを活用した観光利用事業の実施（収穫体験や料理教室の実施、観光商品としての提供） ○収穫祭等町内でのマコモの知名度向上 ○乾燥マコモタケの商品化（マコモタケの需給調整システムづくり）	マコモ湯イベント開催 8回/年 マコモタケ収穫祭 100人/年 マコモタケ収穫・料理教室 40人 マコモ収穫祭 3,000人 乾燥マコモタケの活用 10回 マコモタケ供給量の把握と需給調整のシステム化	H29.4

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
四日市	鈴鹿市	農福連携をまな部会	「植木ノウクネットワーク～農福連携を知る学ぶ そして 雇ってみる～」	近年、緑化植物の生産は需要の減少を受けて、生産体系や品目、数量の見直しが進みつつあるが、その一方で、農福連携で成功しているグランドカバープランツを生産販売している法人もある。 そのような中、当会では障がい者の就労支援に理解のある植木生産農家で構成し、農福連携に関する勉強会を実施し、福祉について学ぶとともに、障がい者の負担が少なくなる作業方法について研究する。また、特別支援学校などのインターンシップの受け入れ先となり、その後の就労に繋げていくことを目指している。	○特別支援学校のインターンシップの受け入れ ○障がい者の施設外就労 ○定期的な勉強会の実施 ○農福連携に関するパンフレット作成によるPR	特別支援学校のインターンシップの受け入れ 障がい者の施設外就労 定期的な勉強会の実施 農福連携に関するパンフレット作成によるPR	H30.1
四日市	菟野町	田光のシデコブシを育む蕎麦プロジェクト	田光のシデコブシを育む蕎麦プロジェクト	本町内では、米・麦・大豆を中心とした二年三作のブロックローテーション体系が確立され、地域ぐるみで効率的な水田活用が行われている。また、兼業農家が大半を占めるが、高齢化が進む一方で、経営拡大に意欲的な中核的担い手も育っている。 なお、本地区では農業者の高齢化による耕作放棄地の増加が課題となっていることから、耕作放棄地を利用した蕎麦畑再生プロジェクトを開始した。	○蕎麦の生産量確保 ○安定供給に向けた体制整備 ○蕎麦の取組の認知度向上	土壌診断に基づいた土づくり 電柵設置による獣害対策 適期収穫 初年度作付面積 1.4ha以上 平均単収 1俵(45kg/10a) 地域イベントでのPR活動	H30.1
四日市	鈴鹿市	北勢薬用植物研究会	枸杞(クコ)を地域特産物に育てよう。	本地域は、県下最大の茶および植木産地であるが、市場出荷販売が主流を占め、長らくの卸売価格の低迷により、専業農家の経営は厳しい状況となっている。さらに、高齢化や後継者不足、廃業により、遊休農地の増加も見られる。	○薬用植物の栽培技術の確立 ○薬用植物の作業機械等の開発・改良	試験ほ場の経過観察および研修会の実施・評価検証による植物特性の把握、栽培技術の確立 収穫・乾燥等の機械開発・改良	H30.2

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
四日市	四日市市	楠地区まちづくり検討委員会	田んぼアートを通して地域の活性化に取り組む	県内有数の工業地帯である一方、農業が盛んであることから、農地は水田が多く、耕作放棄地も少ない他、ホテルが息づく水路があるなど、自然も多く残る地域である。 また、平成22年度より田んぼアートによる地域PRを行ってきたが、人手・資金不足もあり、平成28年度以降は田んぼアートを縮小・中止してきた。しかし、平成30年度より田んぼアートを復活させ、地域の農業と魅力を外部にPRしていくこととした。	○田んぼアートの復活による地域の農業と魅力を外部へPR ○企業がCSR活動として共創できる体制づくり	CSR活動による企業とのフィールドワーク 田んぼアートの田植え・観察会 稲刈り・収穫祭の実施	H30.3
四日市	四日市市	四日市梨生産者部会	課題解決活動を通じたナシの生産安定の実現と四日市梨生産者部会の活性化	四日市梨は人口を多く擁する消費地に近く、将来的にも安定した需要が期待できることから、消費者ニーズに応えた梨を安定供給し続けること、地域の特産品としての知名度をさらに向上させていくことが求められている。 その一方で、生産現場では近年の気候変動の増大が原因と思われる発芽不良や結実不良、病虫害等の問題が発生している。	○安全・安心で高品質な梨の安定供給 ○発芽不良の実態把握と対策技術の実証のほ設置・検討 ○防除暦の更新・実証 ○安全・安心に関する勉強会の開催 ○みえの安全安心食材の全員取得に向けた取組 ○耕作できなくなった梨園の管理ルール作り	発芽不良対策実証ほの設置 2課題、5箇所 研修会の開催 年4回 防除暦の更新・実証 安全・安心に関する勉強会の実施 みえの安全安心食材の全員取得に向けた取組 就農受入れ・園地貸し出し等管理ルール作り	H30.3
四日市	四日市市	高角町東集落営農組合（仮称）立ち上げ検討委員会	高角町下瀬古地区の水田農業を守る仕組み作りの構築	本地区では主穀を中心に、地区内の農業者をはじめ、隣接地区の担い手による熱心な営農により、自己完結型の農業が行われている。 しかし、米価の下落や機械投資の増大など、個人で水田を維持していくことは困難になると予想され、地区内の農業者が協力して農業を行うことで農地を守り、その活動を次世代へ引継いでいく仕組みづくりが必要とされている。	○集落営農組織の設立 ○集落営農組織の経営安定	集落営農組織の設立 小麦等の生産技術の習得	H29.10

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定時期
松阪	多気町、明和町	JA多気郡 稲作部会	みんなに評価される多気郡のコシヒカリを目指して	<p>水稲農家で組織する部会であり、土づくりや施肥管理などを通じて高品質米の安定生産を行っている。「コシヒカリ」をはじめ、「ぎんひめ」や「みえのえみ」、「ミルキークイーン」等多くの品種・銘柄を栽培しているが、近年高温障害による白未熟粒の発生や台風の大型化による倒伏・穂ずれ、その他病害虫等により、等級低下や収量低下が見られるようになってきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○優良品種の導入および品種構成の統一 ○品質・食味の向上および生産費の引下げ ○新技術・生産技術の向上に向けた研究 ○農政活動 	<p>統一曆の作成 現地巡回 土壌診断・食味検査の実施 栽培研修会の実施 1回/年 展示ほの設置 1箇所/年 生産者大会の実施 1回/年</p>	H29.11
松阪	松阪市	JA松阪 梨研究部会	松阪梨研究部会の存続を賭けた大作戦	<p>大正初期より梨の栽培を50aから始め、現在幸水と授粉樹の豊水を主力品種として栽培面積5haまで広がった。また、系統出荷と個選販売が販売時期・ターゲットをすみわけ、バランスのとれた販売体制を築いているのも特徴である。 本部会では、後継者の育つ魅力ある産地づくりを目標に掲げているが、近年高齢化により部会員や面積の減少が著しく、産地の維持に赤信号が点灯している状況である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ニーズに対応した販売体制の拡大 ○初心者講習会の実施 ○県域梨販売農家育成組織と連携した後継者育成 	<p>2kg化粧箱販売形態での販売量増加・販路開拓 500kg→1,000kg、2販路→4販路 初心者講習会の実施 2回/年 次世代後継者候補への情報共有 2回/年 後継者の確保 2人</p>	<p>発展 H30.1</p>
松阪	松阪市	道の駅「飯高駅」 いたかの駅	～直売所を通じた地域の活性化～道の駅「飯高駅」内直売店	<p>本地域は水稲と茶栽培を中心に、その他松阪牛や原木しいたけの生産、山菜なども豊富であることが特徴である。しかし、山村振興法や特定農山村法で指定を受けた条件不利地域であり、山間地内の狭小農地であることに加え、地域の過疎化や農業従事者の高齢化、獣害により、耕作放棄地が増加していることも課題となっている。 その中で、平成16年に道の駅「飯高駅」をオープンし、現在では約260名の出荷者が登録され、地域の特産物販売所として運営されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○野菜・果実の販売力強化 ○生産技術確立の支援 ○農地の有効活用 	<p>野菜・果樹栽培研修会の実施 4回 実証ほの設置（遊休農地活用等）1箇所 栽培者情報交換会の実施 1回 定期的な情報発信 2回 6次産業化プランナーの派遣 3回</p>	H29.10

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
松阪	松阪市	農事組合法人 曾原新田集落営農組合	持続可能な営農体制確立のための法人化と経営発展、集落活性化に向けたビジョンづくり	本地域は古くから水田地帯であることから、水稲作が中心であり、現在では米の生産調整に対応するため、集落営農組合による小麦の集団栽培にも取り組んでいる。 しかし、他集落と同様、農家の高齢化により農地の管理が困難になりつつあり、任意組織のままでは利用権設定等ができないことから、農地を安定的に保全していくために法人化を検討している。	○水稲・小麦の収量・品質向上 ○新規品目の導入による収益確保 ○オペレーターの育成 ○法人への農地集積 ○米の有利販売および農作物の加工	集落営農組織の法人化 集落営農研修会への参加 1回/年 利用集積 50ha 新規品目の導入検討 5回/年 米の有利販売および農作物の加工検討 3回/年	H30.2
松阪	明和町	史跡斎宮跡植栽計画推進委員会	新たな地域資源(蕎麦)の活用と農的取組による歴史文化体験交流の強化	本地区は、昭和45年開始の発掘調査により明らかとなった「斎宮跡」と調和のとれた農業振興が図られており、博物館や交流センター等において歴史文化体験や古代米の栽培体験、植栽活動等が実施されている。 また、近年の発掘過程で蕎麦の種子が発見されたことから、この蕎麦を活用した景観形成や新たな農産加工品の創出を検討し始めたところである。	○蕎麦等の植栽・栽培の推進 ○新たな名物・加工品の商品化・販売 ○栽培・加工品に関する情報発信	栽培状況調査 3回 栽培・加工に関する先進地視察・研修会の実施 3回 加工品の検討・試作 2品目 農産物・加工品の試験販売 販売・啓発資材作成	H29.6
松阪	松阪市	株式会社 権現前 営農組合	産直施設・加工施設を核にした活性化	平成10年に営農組合を設立し、地域内の農作業受託を始め、豆腐製造業者への原料大豆の供給および「フクユタカ」や「美里在来」の栽培を行ってきた。 その後、産地直売施設を開店し、地元ブランド米「権現米」や野菜、総菜等の販売も始め、効率的な水稲・小麦・大豆の栽培体制や新たな商品の加工体制を整えてきている。	○農地の集積化および施設整備 ○人材育成 ○地域との交流 ○地元生産物の販売強化 ○新規加工品の開発および加工部門の販売強化	近隣営農組合との連携による農地拡大 格納庫や作業機械の整備・更新 オペレーターの確保 年7日/人 非農家住民の営農活動への参加 2人 イベント・食農体験学習の実施 7回/年 地域向上会議の実施 産直施設のPR 毎月 野菜生産者会議・研修会の実施 3回/年 新規加工品の開発 加工部門の販売強化	発展 H29.6

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
松阪	松阪市	自然体験あそび塾チームわらべ	アサギマダラの飛来地を指して農地等を保全する	<p>本地域は、山間地特有の気候条件から茶を基幹産業としており、特に煎茶を中心に深蒸し煎茶なども多く生産する県内有数の茶産地である。</p> <p>しかし、近年農業就労者の高齢化や後継者不足、その他茶以外は経営規模が零細であることから、獣害被害による農業生産意欲の減退が原因で、耕作放棄地が増加している。</p>	<p>○フジバカマの栽培およびアサギマダラの観察地整備による農村景観の維持</p> <p>○フジバカマの加工・販売</p> <p>○獣害に強く、栽培の容易な農作物の実証</p>	<p>町内栽培可能農地調査 3回</p> <p>先進地視察 1回/年</p> <p>観察地整備 1,500㎡</p> <p>イベントの開催 1回/年</p> <p>加工品の試作 1品/年</p> <p>体験メニュー等の作成 3個</p> <p>栽培事例の情報収集 1品種/年</p> <p>栽培試験 1品種/年</p>	H30.3
松阪	松阪市	ゆったり庵シスターズ	地域の資源と文化を生かした豊かな暮らしづくり	<p>本地域は、水田を中心とする稲作地域であり、その他サツマイモや綿、ユウガオ等の栽培にも取り組んでいるが、農業者の高齢化や後継者不足等他地域と同様に、今後地域の農業を維持していけるか危機感が強くなってきている。</p> <p>その中で、本団体は小学校やまちづくり協議会と連携した体験教室や季節料理教室、老人会活動の他、田んぼアート等農村文化を生かした地域密着活動を実施している。</p>	<p>○学校やまちづくり協議会との連携、地域の拠点づくりによる地域内外の人との交流</p>	<p>郷土料理体験の実施 4回/年</p> <p>昔の道具披露 1回/年</p> <p>季節の料理づくり、老人会との連携、田んぼアートの実施 全体で4回/年</p> <p>地域内の空き店舗の活用検討 1回/年</p> <p>市の開催 2回/年</p>	H30.3
松阪	松阪市	JA一志東部いちじく部会	JA一志東部いちじく部会地域活性化プラン第2章(産地力アップに向けた販路の充実)	<p>昭和45年よりいちじくの栽培を始め、現在では県下第1位の産地となっていることから、本部会では多くの県内生産者の視察を受入れるとともに技術指導を行うなど、本県のいちじく栽培において中枢を担っている。</p> <p>しかし、量販店では生産量日本一の愛知県産いちじくが隣に並んでいることから、本部会のいちじくは量ではなく、鮮度と品質で勝負し、オンリーワンとなれる販売を目指すことが重要である。</p>	<p>○高品質かつ生産量を確保する体制づくり</p> <p>○ブランドのPR活動</p> <p>○商品力・販売力の向上</p>	<p>量販店での試食宣伝活動 1回/年</p> <p>地元小中学校での食育活動 1回/年</p> <p>販路開拓および販売額の向上</p>	<p>発展</p> <p>H30.3</p>

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
伊勢	伊勢市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町	JA伊勢 いちご部会	伊勢の後継者、新規参入者を目ざしたイチゴ部会の再構築	<p>本地域のイチゴ栽培は、恵まれた地域条件を生かして昭和40年代から60年代にかけて、所得拡大作物として急速に作付面積を増やし、平坦地では水田転作物目、中山間地では茶との複合経営として、その他冬季の収入源としても経営体の育成に役立ち、産地形成がされてきた。</p> <p>なお、本部会は県内でも早い段階から産地化が進んだことによる高齢者比率の増加や、生産資材の高騰・販売単価の伸び悩みによる農家経営の圧迫などが課題となっており、ひいては後継者や新規参入者の確保が困難な状況となっている。</p>	<p>○既存生産者の所得向上</p> <p>○新規就農者・後継者の技術習得・経営能力向上のための仕組みづくり</p>	<p>新規就農者 2名</p> <p>新規就農者の生産面積 30a</p> <p>就農サポーター 2名→4名</p> <p>研修体制の検討および研修トレーナーの選出、研修施設の整備</p> <p>研修施設を卒業した新規参入者・後継者の独立経営支援</p>	発展 H30.1
伊勢	玉城町、度会町、志摩市、紀北町	伊勢いちご若手研究会	伊勢の若手イチゴ生産者をめっちゃ元気に。	<p>本地域のイチゴ栽培は、恵まれた地域条件を生かして昭和40年代から60年代にかけて、所得拡大作物として急速に作付面積を増やし、平坦地では水田転作物目、中山間地では茶との複合経営として、その他冬季の収入源としても経営体の育成に役立ち、産地形成がされてきた。</p> <p>なお、産地の維持・活性化のためには世代交代が必須条件であるが、古くから産地づくりに取り組んできたことから、生産者の高齢化が避けられない状況であるため、一次産業に関心を寄せる人材にイチゴ作りの魅力を伝えるため、自らが受け皿となる体制を整えていく必要がある。</p>	<p>○若手生産者や新規参入者の相談相手になり得る組織の設立</p> <p>○収量と品質の向上等基本技術をベースに消費者の需要・要望に合わせたイチゴ作り</p>	<p>組織の設立および組織目標の明確化</p> <p>消費者との意見交換会の実施</p> <p>栽培技術研究会・先進地視察等の実施</p> <p>新技術の導入試験</p> <p>会員相互の情報交換・ほ場巡回</p> <p>各種提言や技術実証の報告</p>	H30.3
伊勢	鳥羽市、志摩市	JA鳥羽志摩 オクラ生産者グループ	オクラの生産・販売力の向上	<p>本地域では、イチゴや早場米、ストックの生産等温暖な立地を活かした特色ある農業が展開され、中でも南張メロンやきんこは特産品として、市場や消費者から高く評価されている。</p> <p>一方で、高齢化に伴い、生産者および作付面積が減少し続けており、新たな担い手の確保が必要になっているとともに、獣害による農作物への被害が、耕作意欲の減退と弱体化に繋がっている。</p>	<p>○オクラの生産量維持に向けた栽培管理技術の向上および生産者の確保</p>	<p>栽培講習会や出荷目揃い会の実施</p> <p>栽培ほ場の巡回</p> <p>生産者の確保</p>	H30.3

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定時期
伊勢	大紀町	大瀬施設検討委員会	大瀬東作邸を活用した地域活性化	地域内には義務教育制度を確立した大瀬東作氏の生家が存在し、お葉つきイチョウや野原公園の魯桑、五葉松など数ある巨木も注目されている。 このことから、地域内のさまざまな資源を活用し、現在の農村、コミュニティを維持していくことが大きな課題である。	○「食や農村文化の学びの場」となるよう生家を活用した地域活性化 ○地域外からの訪問客との交流	生家での農家民泊申請検討 体験メニューの確立・ブラッシュアップ CSRの取組検討	H29.9
伊勢	伊勢市	上地耕作組合	伊勢市上地町の農地を守り、地域農業を活性化する 集落営農を目指す	本地域では国営宮川用水を利用し、水稲や小麦、施設野菜、花き、露地野菜などが栽培されている。 水田農業では、数名の担い手農家がいるが、経営規模は限界に達していることから、平成29年に本組合を設立し、農地の新たな受け手となっている。	○水田転作作物の導入 ○農作業の協同化 ○耕作放棄地の解消 ○耕作組合の組織強化	小麦の安定生産 共同作業による低コスト化 人・農地プランの策定および農用地等の利用集積 組合の法人化および組合への加入促進	H29.9
伊勢	伊勢市、玉城町	JA伊勢 玉城柿部会	柿農家の所得向上および産地維持対策に向けた取組み	本地域では、平坦な地形と比較的温暖な気候を生かし、水稲を主体に梨やブドウ、桃、柿等多くの種類が栽培されている。その中でも、次郎柿は地域全体で栽培されており、町の特産果実となっている。 しかしながら、柿を取り巻く社会情勢等の環境は年々厳しさを増しており、農家所得の低迷や高齢化等の理由から、柿の栽培を継続できなくなった農家も増えているため、柿農家の所得向上や荒廃園を減らす取組が喫緊の課題である。	○秀品率向上のための情報収集 ○高品質果実生産のための栽培技術の向上 ○コスト削減 ○県内の販促強化および高単価販売の実施 ○産地維持	優良農家の選定および防除・栽培記録等の情報収集 施肥基準の設定および勉強会の実施、実証ほの設置 ジェネリック農業の利用促進および土壌診断の推進 販促イベントの実施およびギフト販売 作業受託組織の立ち上げおよび初心者講習会受講者の活用 メールやSNSを活用した情報共有	発展 H30.3

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
伊賀	伊賀市	JAIいがほくぶ 苺生産部会	JAIいがほくぶ 苺生産部会	<p>本地域は、古くから良質米の産地として名高い一方、開畑エリアでは果樹や野菜の産地化も推進されてきた。</p> <p>その中で、本部会では市場出荷や直接販売、イチゴ狩りなど、生産者ごとに多様な方法で苺を販売しており、併せて品質重視や収量重視などさまざまなねらいで生産しているが、病害虫の発生による品質低下や収量低下が課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生産性の向上 ○組織の強化 ○販路の維持・拡大 	<p>育苗の徹底防除 全員実施</p> <p>新たな防除方法や新規薬剤の情報収集・試験 1回</p> <p>県内外の新技术の取組に関する情報収集 1回以上/年</p> <p>相互のほ場見学 2回/年</p> <p>販売方法の検討・研修会への参加 1回</p> <p>苺の直売所マップ等PR資料の作成</p>	H30.2
伊賀	伊賀市	JAIいがほくぶ 柿部会	JAIいがほくぶ柿部会の生産及び販売改善	<p>これまで自家消費を目的に栽培されてきた伊賀の柿であるが、平成2年に開発地域を中心に「すなみ柿」が挿入され、販売を目的とした本部会が発足した。現在は、栽培研修を積み重ね、高品質で糖度の高い大玉果として、市場出荷・直売所を中心とした販売方法をとっている。</p> <p>しかし、高齢化や自然災害、獣害などにより、産地規模がピーク時の栽培面積15haから2haまで減少し、これに伴って出荷量も減少し、単価の安定が見込めなくなったことから、市場出荷から直販への販路変更を検討している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新直売所での販路拡大および「すなみ柿」の知名度アップ ○他産地柿との差別化を図るための栽培管理の改善 	<p>PR資材・新商品パッケージの開発</p> <p>出荷量の増加 7t→7.5t</p> <p>栽培管理の改善</p>	H29.5
伊賀	伊賀市	農事組合法人 下友生ファーム	下友生地区の水田農業を次世代へ継承するための集落営農法人の取り組み	<p>本地区は、古くから良質米として知られる伊賀米の産地の一翼を担っており、良食味品種のコシヒカリを主力品種として、その他実需者からの要望が高い小麦「タマイズミ」や大豆「フクユタカ」なども栽培している。</p> <p>その一方で、農業者の高齢化が進んでいることから、個人での管理が困難な水田は本団体ができる限り預かっているが、オペレーターの高齢化や労働力不足に加え、既存の機械・施設の作業能力が上限に近づきつつある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○組織体制の整備・強化 ○水稲・小麦・大豆等の生産性の向上 ○経営計画の策定 ○販売対策 ○農福連携の検討 ○地区内住居者に対するファーム活動の周知等 	<p>部門別担当制の導入および次世代オペレーターの育成・確保</p> <p>収量減収・低収要因の解析および増収・低コスト化に向けた新技术の導入検討</p> <p>経営規模拡大の計画および設備投資の計画的実施</p> <p>新規部門の導入検討</p> <p>6次産業化計画の策定およびJGAPの取組検討</p> <p>特別栽培米の生産および米の直販取扱量の拡大、ネット販売、新商品の開発</p> <p>障害者雇用の検討</p> <p>ファームニュースの発行および地元小学校への食育等地域貢献活動の実施</p>	H29.10

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
伊賀	名張市	イーナバリ株式会社	三重県名張市の豊かな自然が育んだ秘伝の風土と食の発信と販路開拓・ブランド化	<p>本地域では、耕作面積が小さい分きめ細かく丁寧な栽培方法で農業を営む者が多く、その中で化学肥料・農薬不使用や有機栽培に特化した野菜農業者の占める割合は年々高くなっている。</p> <p>市内には、オーガニック系の野菜や加工品を販売する拠点、あるいはそれらを使用した料理を提供する飲食店が増加傾向にあり、安心・安全な食に対する需要が高まっているとは言え、数ある選択肢の中で選ばれるためにはブランディングや市外・県外での販路開拓が不可欠である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○野菜や果実の高付加価値化およびブランド化 ○農業者の所得向上および収入の安定化 ○開発商品の販路開拓 	<p>一次加工品のメーカーへの販路拡大 および最終製品の販路拡大 ネットやギフトカタログでの情報発信 取引販売先の拡大および製造数・種類の増加 各3件 雇用の創出 1人</p>	H29.12
伊賀	伊賀市	上野北稲作部会 花之木支部	花之木地区における水稲高品質安定栽培への取り組み	<p>本地域は、古くから良食味米として知られる伊賀米の産地であり、水田作が中心であることから、以前より土地利用型作物の生産や調整、貯蔵、販売に至る体制強化と基盤・施設の整備が進められてきた。</p> <p>その一方で、異常気象等による品質・収量の低下が喫緊の課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○稲作栽培技術および経営技術の相互研究による生産性の向上・改善、所得の安定化 	<p>土壌分析による土づくり 1回/年 勉強会・反省会および定期巡回の実施 3回/年、随時 肥培管理の実践 一等米比率 70%、平均収量 540kg/10a</p>	H30.3
尾鷲	紀北町	小山浦水利営農組合	ヤツガシラ(里芋)栽培とくき漬け加工による農業の活性化	<p>本地域では米の他、花壇苗やイチゴ、トマト、温州ミカンや中晩柑橘類等さまざまな農作物を栽培している。その中で、露地野菜としてヤツガシラの栽培が行われており、JA加工所をはじめ、町内でくき漬けが伝統的な農産物加工品として製造されている。</p> <p>ヤツガシラ栽培およびくき漬けに関しては、近年高齢化だけでなく、年毎の収穫量が安定しないことや収穫適期の期間が短いことによるくき漬け作業の負担が大きいこと、腐敗等による商品廃棄率の高さが課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○安定的な生産および衛生管理の徹底 ○販売戦略の検討およびヤツガシラ生産量の拡大、くき漬け販売の向上 	<p>商品の消費動向調査 ニーズに合った商品の検討・製造 食品衛生研修会の実施および加工管理技術の向上 栽培・加工マニュアルの作成および研修会の実施</p>	H30.1

地域活性化プラン一覧（平成29年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期期
熊野	熊野市、御浜町、紀宝町	三重南紀みかん産地再構築委員会	第3次三重南紀果樹産地構造改革計画	<p>本地域は、平均気温が高いことから柑橘栽培に適しており、県下において柑橘産地の中心となっている。このことから、温州みかんやデコポン、カラ、セトカ等多様な品種の栽培を行っている。</p> <p>しかし、高齢化や担い手不足による耕作放棄園の増加や異常気象・樹の老朽化による生産量の減少、獣害被害による生産意欲の減退等が進んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○高品質果実の安定生産 ○ブランド化の推進および販売力の強化 ○担い手・生産者が輝く産地づくり 	<p>消費者から求められる品種への転換 高品質果実の安定生産および技術の普及 681ha→750ha、10,440t→13,500t 消費者・量販店との情報交換・交流 販売額の増加および安定的な販売体制の確保 新たな担い手農家の確保・育成 果樹経営農家768戸→700戸、担い手農家195戸→200戸 経営診断・経営指導の実施</p>	<p>発展 H30.3</p>
熊野	御浜町	みはま元気まつり実行委員会	御浜町直売施設を中心とした地域活性化プラン	<p>温暖な気候を活かした柑橘栽培が盛んで、丘陵地には柑橘畑が広がり、年間を通して多種多様な柑橘類を出荷している地域である。</p> <p>また、道の駅パーク七里御浜で定期的に開催している「みはま元気まつり」でも販売している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅パーク七里御浜での農業者による直接販売および農家所得の向上、地域住民との交流、魅力発信 ○無農薬栽培等による安全・安心な農産物の生産 ○仲間づくりの推進 	<p>農産物等販売の定期市の開催 農産物栽培・加工講習会等の実施 EM菌を利用した生ゴミ堆肥の利用推進 炭素循環農法等新たな栽培法の推進 仲間づくりを目指したイベントの開催</p>	<p>H30.3</p>

地域活性化プランに関する問合せ先

問合せ先	電話番号
三重県 農林水産部 担い手支援課	059-224-2016

地域機関の窓口	電話番号
桑名農政事務所 農政室 地域農政課	0594-24-7421
四日市農林事務所 農政室 地域農政課	059-352-0629
津農林水産事務所 農政室 地域農政課	059-223-5102
松阪農林事務所 農政室 地域農政課	0598-50-0515
伊勢農林水産事務所 農政室 地域農政課	0596-27-5164
伊賀農林事務所 農政室 地域農政課	0595-24-8108
尾鷲農林水産事務所 農政・農業基盤室 地域農政課	0597-23-3498
熊野農林事務所 農政室 地域農政課	0597-89-6122